

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年9月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 10
4 対日動向	・ ・ ・ 13
5 国境地域等での活動	・ ・ ・ 16
6 軍事交流	・ ・ ・ 19
参考文献	・ ・ ・ 22

中国軍事動向月報：2024年9月

2024. 10. 8

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全般

訓練最盛期に入り、統合訓練等訓練の頻度・レベルを上げるとともに、秋季徴兵により入隊した新兵が各軍種の教育部隊に着隊し訓練を開始した。

台湾侵攻を主担当とする東部戦区では民間船も参加した統合着上陸訓練等を、海軍では空母2コ編隊が太平洋と南シナ海でそれぞれ遠海訓練を、ロケット軍及び陸軍長距離砲部隊は大規模な実射訓練を実施した。また、海警総隊が初めて公海上でヘリによる法執行活動を実施する等、その能力を向上させている。

中でもロケット軍が9月25日に44年ぶりに大陸間弾道ミサイル（ICBM）を太平洋公海へ発射したことは大いに注目された。中国は同発射を成功と公表しており、中国の核戦略が「最小限抑止」から「相互確証破壊」へ移行する大きな一歩となりうる可能性がある。

日本に対しては、空母遼寧が中国空母として初めて日本の接続水域を通過した。習近平総書記兼中央軍委主席が7月30日に指示した「国境・海空域防衛力整備」強化の一環とも考えられる。

台湾に対しては、台湾海峡中間線を越えて航行する軍用機が台湾の南西部及び東部まで飛来する等、圧力を強化した。

南シナ海においてはフィリピン（以下、比）への強硬姿勢を強化し、サビナ礁に長期停泊していた比巡視船の撤退を強要する等実力をもって比のプレゼンスの排除を図った。

人民武装警察貴州総隊に着隊する秋季入隊の新兵



（資料源：解放軍報 20240929）

2 各軍等

(1) ロケット軍による ICBM 発射

中国国防省は9月25日、「9月25日8時44分（注：日本時間9時44分）、中国人民解放軍ロケット軍が訓練用模擬弾頭を搭載した大陸間弾道ミサイルを太平洋公海へ向け発射し、成功。予定海域に正確に落下した。」と発表した¹。

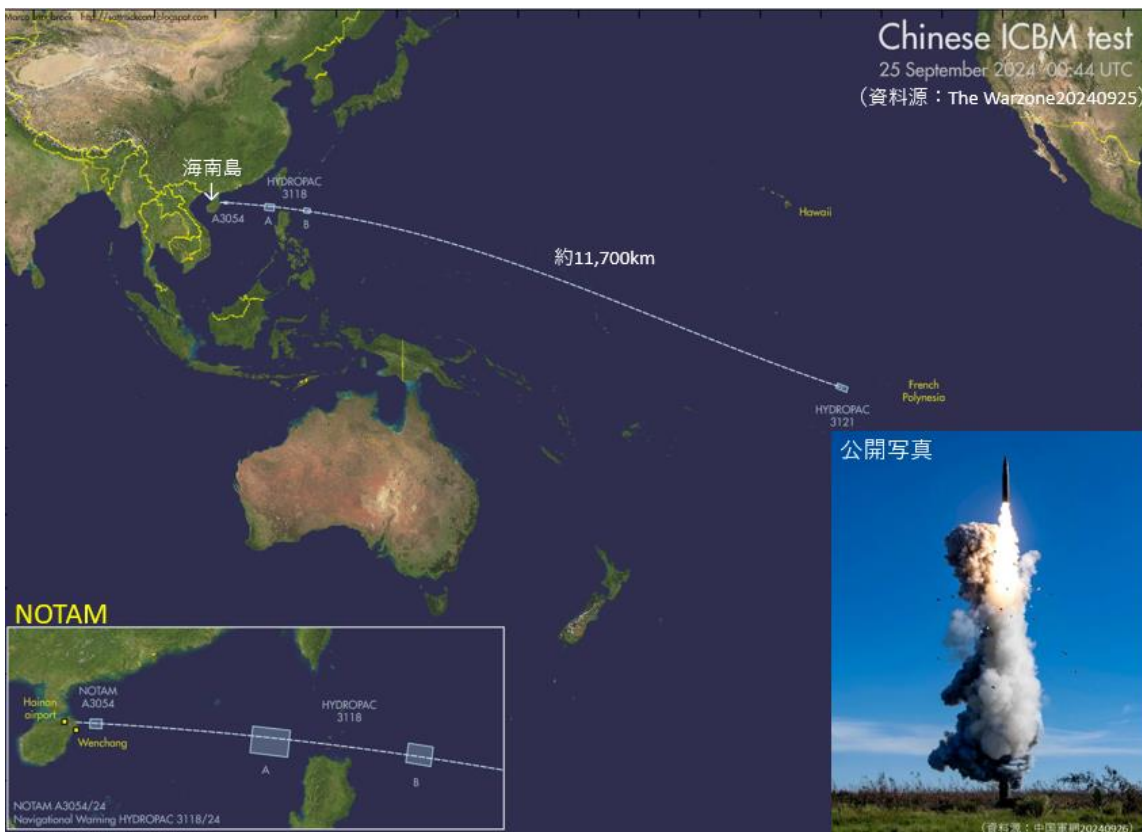
【コメント】

公表された写真や発出されている NOTAM（航空機の安全運航のために関係機関が出す航空情報）から推察すると、固体燃料推進・車載型 ICBM である DF-31AG が中国南部の海南島から発射され、約 11,700 km先の仏領ポリネシア周辺海域に落下した可能性がある。

中国は通常、ミサイルの性能を明らかにするテレメトリー信号等を他国に収集されるのを避けるため、発射試験・訓練は国内の発射試験・訓練場から西方にある砂漠地域へ向けて実施するが、今回は性能の秘匿よりも、ICBM をミニマムエネルギー軌道（最も効率的な飛翔パターン）をとった最大射程で発射し、その性能検証をより重視した可能性がある。

この理由として、今次発射を現在内陸部の3か所で建築中の ICBM サイロ群運用開始前の最終試験として行った可能性がある。合計 300 基以上が概成している ICBM用サイロに装填するミサイルを実戦に即した発射で検証できれば、その核抑止力は大幅に増大する。この発射が中国発表の通り成功だとすれば、「相互確証破壊」核戦略移行への大きな一歩と言える。

(細部は国基研ろんだん「米中「相互確証破壊」時代の幕開けか—中国 ICBM 発射」20240930 参照)



(2) 統合・協同訓練

○ 着上陸訓練

9月4日、台湾国防部は「中国軍は9月3日から福建省東山島大呈湾周辺海域において統合着上陸演習を実施。揚陸艦・RORO船に乗船した上陸部隊の他、戦闘機・支援機・ヘリ・無人機が参加」と発表²。

9/4 大呈湾での水陸両用部隊の上陸訓練 (白い線が水陸両用装甲車の浮航跡)



演習参加の可能性のあるRORO船の航跡



(航跡資料源：Marine Traffic、写真資料源：大連港フェットセンター)

○ 東部戦区

9月26日、台湾国防部は「東部戦区等の部隊はこの程、日本周辺・朝鮮半島の黄海・渤海において波状的な実弾射撃を実施」と発表³。

(3) 海軍

○ 空母山東の遠海訓練

中国は9月29日、「山東空母編隊がこの程南シナ海・西太平洋での訓練を終了し、帰港。全天候下で昼夜を分かたず艦載機の対抗訓練、海空目標への打撃訓練等を実施し、遠海作戦能力を向上させた。」と報道⁴。

遠海訓練中の山東空母編隊（資料源：中国軍網 20240929）

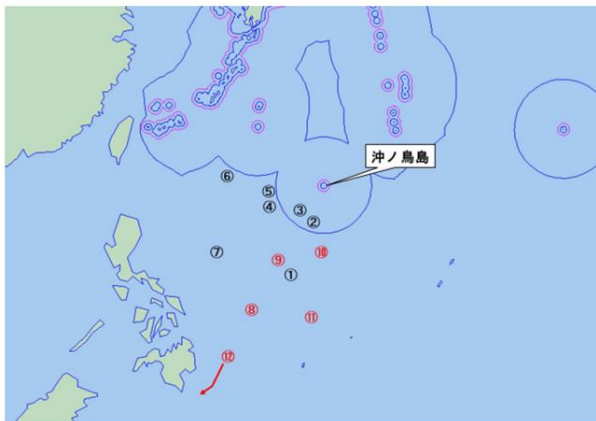


○ 空母遼寧の太平洋上での訓練

9月19日、国防部報道官は「年度の訓練計画に基づき、遼寧編隊は西太平洋等の海域で定例訓練を実施した」と表明⁵。

統合幕僚監部によると「9月20日～10月1日、空母遼寧を含む複数の中国海軍艦艇が、太平洋上の海域において航行。当該期間に、遼寧の艦載戦闘機が約380回及び艦載ヘリが約250回、計約630回発着艦」⁶したことを確認。

遼寧編隊の航行位置・発着艦の状況（資料源：統合幕僚監部20241002）



※ 中国海軍艦艇の航行を確認した位置（赤字が今回公表分）

番号	日時
①	9月20日（金）午後8時頃
②	21日（土）午後8時頃
③	22日（日）午後8時頃
④	23日（月）午後8時頃
⑤	24日（火）午後8時頃
⑥	25日（水）午後8時頃
⑦	26日（木）午後8時頃
⑧	27日（金）午後8時頃
⑨	28日（土）午後8時頃
⑩	29日（日）午後8時頃
⑪	30日（月）午後8時頃
⑫	10月1日（火）午後8時頃



(4) ロケット軍

○ 内陸部における発射訓練（陸軍ロケット砲部隊等含む）

台湾国防部は中国軍の発射訓練について以下を発表

- ◇ 18日、甘肅省にて複数の多連装ロケット砲の射撃を実施⁷。
- ◇ 29日6時50分頃から、ロケット軍及び陸軍長距離火力部隊が内蒙古・甘肅省・青海省及び新疆地区において波状的な射撃を実施⁸。

【コメント】

訓練最盛期に入り、各軍種ともその訓練の頻度・レベルを上げている。

陸軍では、大呈湾で着上陸訓練を実施しており、3日はAISで確認されただけでも RORO 船3隻が同湾に集結し、これら民間船が参加した陸海空軍の統合演習が実施された可能性がある。

海軍では、空母山東編隊が南シナ海で、空母遼寧編隊が太平洋で遠海訓練を実施した。それぞれ、南シナ海領有権問題係争国、日本、台湾及び第一列島線に接近する米国を牽制した可能性がある。

空母の太平洋における訓練は、空母山東が7/9～18及び8/12～13に実施したのに引き続き3か月連続となった。空母遼寧は12日間の訓練で計630回の発着艦を実施、空母山東の7月訓練時の10日間発着艦420回、8月訓練時の2日間発着艦20回に比して、期間・発着艦数とも増加した。

各軍種の実弾射撃訓練も活発化しており、海上及び長射程ミサイルの発射訓練場や射爆場のある内陸部へ移動しての総合的な射撃訓練が実施された。

一方、これら中国軍の訓練に関し、台湾国防部による発表が定例化しつつある。圧力を強化する中国に対し、状況把握と監視を適切に実施していると中国及び台湾内部に周知したい企図があると考えられる。

(6) 海警総隊

○ 海警が公海上で初のヘリによる法執行任務を実施

9月8日、海警船2隻が2024年北太平洋公海漁業法執行パトロールを終了し帰港。同活動は9回目であるが、今回は初めてヘリが公海上を飛行し法執行活動を実施した。今回は45日間で監視した漁船73隻、臨検18隻、ヘリの法執行飛行12回を実施⁹。

北太平洋公海漁業法執行パトロールの状況



(資料源：中国海警局官方weibo20240909)

○ 中露海警共同演習

9月16~20日、中国海警2303と2305がロシアを訪問、ピョートル大帝湾で中露海警共同演習を実施。安全保障上の脅威に対する法執行及び海上搜索救難をテーマに共同搜索・臨検・救難等の訓練を実施した。演習終了後の21日に中国海警船2隻は露沿岸警備隊の巡視船2隻と北太平洋の公海において共同パトロールを実施した¹⁰。

中露海警共同演習の状況



(資料源：中国海警局20240918)

○ 中露共同北太平洋公海漁業法執行パトロール

9月16~20日に中露海警共同演習に参加した海警船2隻は、引き続き共同して北太平洋公海漁業法執行パトロールを行い、操業中の船舶に対し検査を実施した。

また、国慶節(10/1)期間に中国海警として初めて北極海にも進出。海警の遠洋航海範囲を拡大し、未習熟地における任務遂行能力を検証した¹¹。

中露海警共同パトロール



(資料源：中国海警局20240929)

北極海上での国慶節行事で党旗へ宣誓



(資料源：環球網20241002)

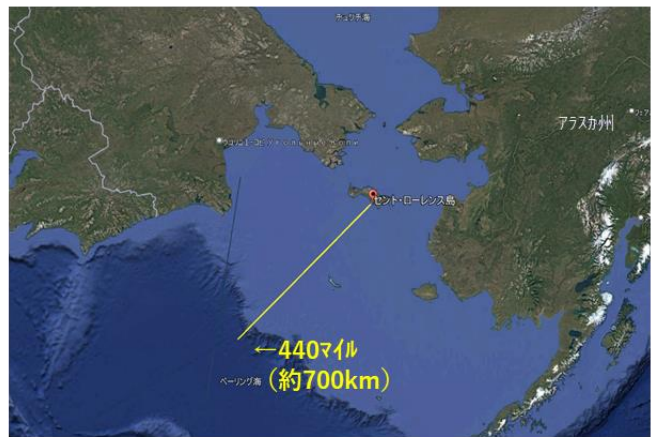
米沿岸警備隊は、9月29日にベーリング海をパトロールする中露4隻の海警船をセント・ローレンス島南西440マイルで視認、露EEZの5マイル内側を航行しており、米沿岸警備隊が確認した中国海警船としては最北である、と発表¹²。

米沿岸警備隊が撮影した海警船



(資料源：United States Coast Guard News20241001)

中露海警船が視認された位置



【コメント】

海警の艦載ヘリの運用能力、遠海作戦能力強化を示す報道が確認され、尖閣周辺海域での活動活発化につながる恐れもあり、注目される。

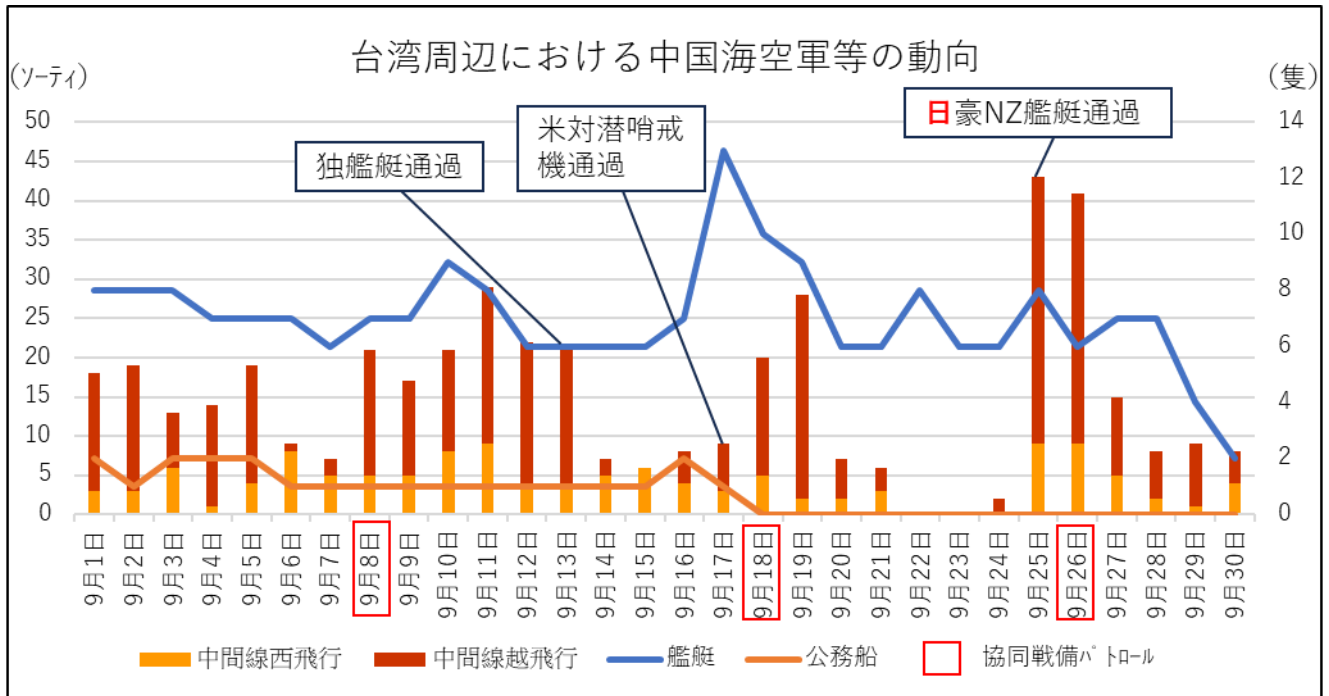
まず、北太平洋公海漁業法執行パトロールにおいて、北海海区直属第6支隊の海警艦載ヘリが初めて公海上を飛行し法執行活動を実施した。北海海区は尖閣担当海区ではないが、直属支隊は尖閣編隊に増強される可能性もある。

次に、尖閣担当支隊である東海海区直属第2支隊の海警船が中露共同北太平洋公海漁業法執行パトロールを行い、海警として初めて北極海を航行した。遠海作戦能力の向上させた可能性がある。

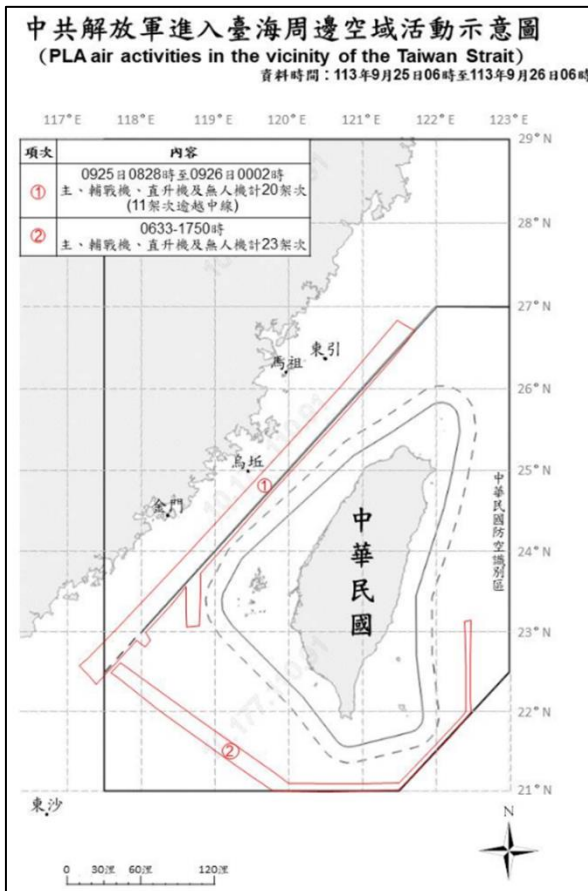
3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)



9月は中国軍機延べソーター447 (内、中間線超えが延べ322)、中国艦艇延べ211隻、公務船延べ22隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は43ソーター、最大中間線超え34ソーター、海空協同戦備パトロールは3回であった。

9月25日には左図②の航跡が示すようにJ-16、KJ-500、無人機等22ソーターが中間線を越え、台湾の南西部及び東部まで飛行した。

(資料源：中華民国国防部 20240926)

○ 外国艦艇等の通過

- ◇ 9月14日、東部戦区報道官は「14日、ドイツ海軍のフリゲート艦「バーデン・ビュルテンベルク」と補給艦「フランクフルト・アム・マイン」が台湾海峡を通過し喧伝した。東部戦区は海空兵力により全行程を警戒監視。独の行為は安全保障上のリスクを高め、誤ったシグナルを送るものである。一切の威嚇と挑発に断固対抗する」と表明¹³。
- ◇ 9月17日、東部戦区報道官は「9月17日、米軍P-8A対潜哨戒機1機が台湾海峡を通過し喧伝した。東部戦区は軍用機により警戒監視を行い法に基づき対処した。」と表明¹⁴。
- ◇ 9月26日、国防部報道官は定例記者会見において「9月25日、日本護衛艦「さざなみ」、豪護衛艦「シドニー」、ニュージーランド補給艦「アオテアロア」が、台湾海峡を通過し、解放軍はこの全行程を監視・警戒した。中国は「航行の自由」の名の下に台湾独立勢力に間違った信号を送り、中国の主権・安全に危害を加える挑発に断固反対する。」と表明¹⁵。

【コメント】

中国は軍用機の飛行を台湾東部まで延伸し圧力を強化する一方、そのような力による現状変更に対抗して航行の自由を掲げる国々への対応にも迫られている。

独軍艦の台湾海峡通過は2002年以来、22年ぶり。ピストリウス独国防相は13日、「そこは国際水域であり、最短かつ最も安全なルートだ」と正当化した。

また9月25日については海上自衛隊は初、ニュージーランド（以下、NZ）海軍は7年振りの台湾海峡通過。豪艦艇は昨年も通過している。この3隻は南シナ海で行われる多国間訓練に参加するために移動した。

午前に海上自衛隊の護衛艦「さざなみ」が台湾海峡を北から南に向かって通過するも、防衛省から公式な発表はなし。

NZは同国国防部報道官が、補給艦「アオテアロア」(HMNZS Aotearoa)が豪護衛艦「シドニー」(HMAS Sydney)と共に台湾海峡を通過したと公表。NZのコリンズ国防相は声明で、両軍艦艇の共同行動について「通常の活動であり、国連海洋法条約で保障された航行の自由の権利を含め、国際法と合致している」と主張。豪国防省報道官も「われわれの（艦艇）派遣は、開放的で安定し、繁栄したインド太平洋を支える取り組みを実証している」と述べた¹⁶。

海上自衛隊としては初の台湾海峡通過と報じられた。海上自衛隊については、9月24日に木原防衛相が7月4日に中国領海を一時航行した護衛艦「すずつき」の艦長を7月中に交代させたことを明らかにしたが、大臣発表より前に中国のSNSでは「日本が自国の非を認めて中国に謝罪、艦長を更迭した」との論調が散見された。中国に誤ったメッセージを送らないためにも、今回の海峡通過は良いタイミングであったと思料する。

(2) 金門周辺海域での動向

○ 海警のパトロール

台湾海巡署によると、9月は海警船が4回制限水域に進入、今年の累計は42回であった。

このうち、9月26日の侵入については、「26日0850(台湾時間)、中国海警4隻(14515、14603、14609、14521)がそれぞれ金門復興嶼、翟山、新湖、料羅南方の4方向から台湾制限水域に入域、台湾海巡署は巡視艇4隻を派遣し1100に退去させた。同じ海警船が同日1420～1620に再び同様の方法で進入し、1620に出域した。それぞれ2時間10分及び2時間の航行であった。」と表明¹⁷。

一方、中国海警局は「9月26日、福建海警が金門周辺海域において常態化法執行パトロールを実施。9月以降、福建海警は同パトロールを継続し、関連海域での管理を強化している」と表明した¹⁸。

【コメント】

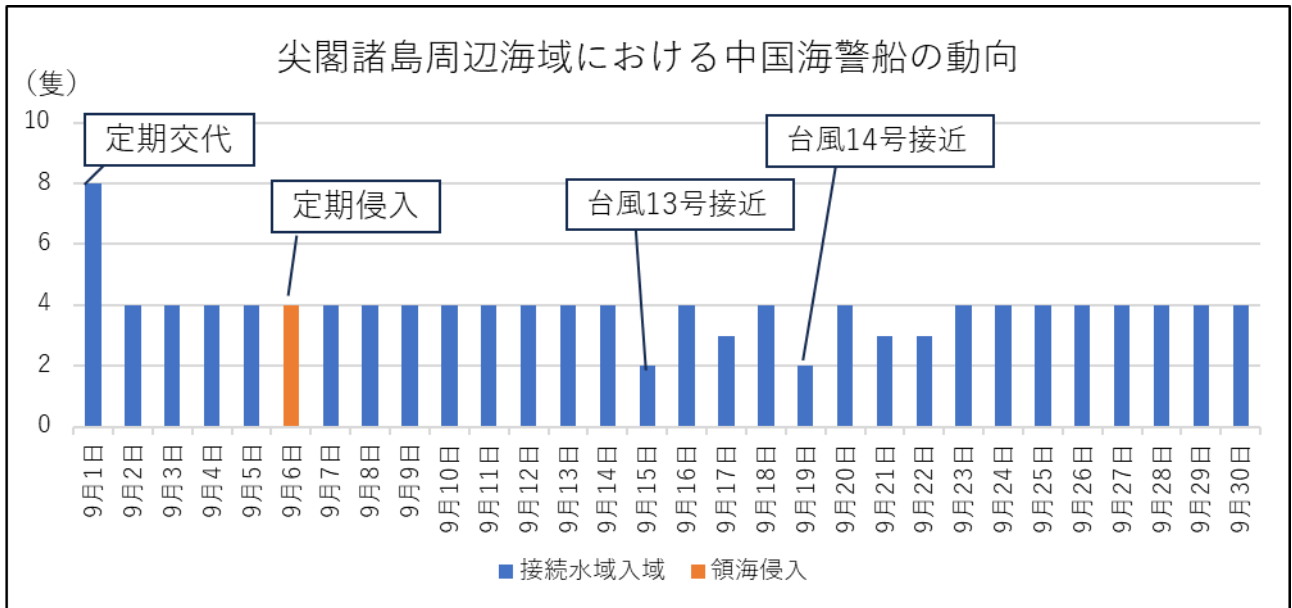
金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4隻で4方向から進入し2時間航行、というパターンで常態化しつつある。

9月26日は国慶節前のパトロール強化の一環と考えられ、特に特異な事象は確認できなかった。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

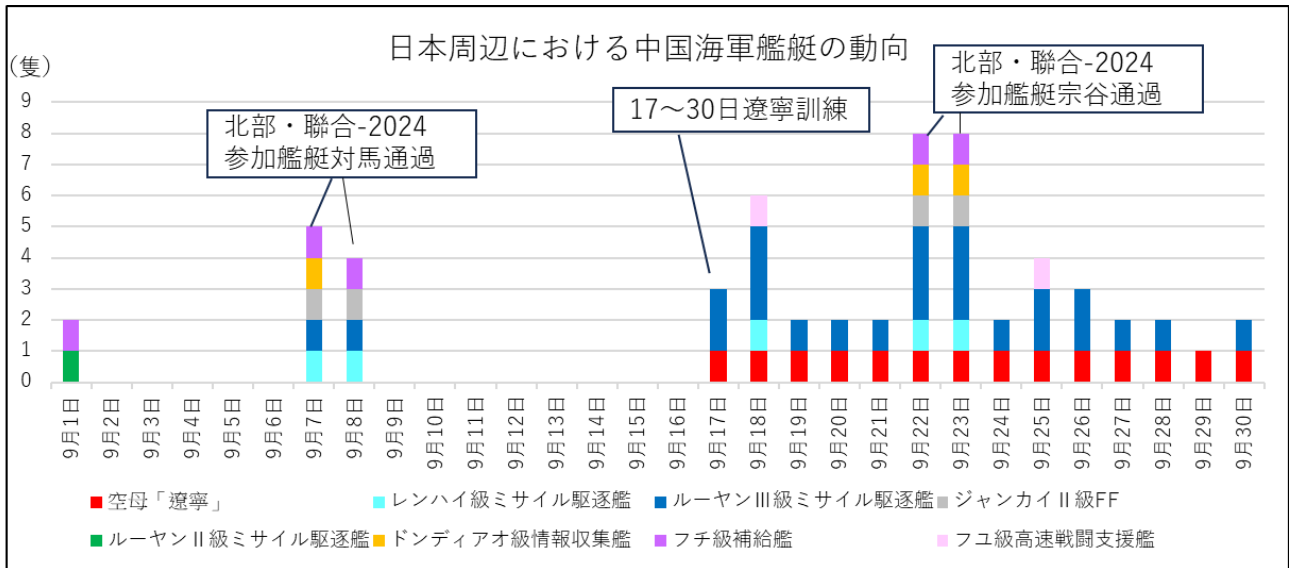
【コメント】

9月も砲搭載船4隻による活動を実施したが、交代や領海侵入の要領に特異な事象は報道されなかった。日本漁船に対応した領海侵入も確認されなかった。

台風接近時には1000t級海警船2隻は一時避退した可能性があるが、3000t級海警船が活動を続けた。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

先月の延べ 15 隻から大幅に増加し、延べ 58 隻が確認された。

9月17～18日、クズネツォフ級空母「遼寧」及びルーヤンIII級ミサイル駆逐艦2隻の計3隻が、魚釣島の西約70kmの海域を南進した後、与那国島と西表島との間の海域を南進し、太平洋へ向けて航行した。中国海軍所属空母が、与那国島と西表島との間の海域を航行したことを確認したのは初めてである¹⁹。

なお、空母遼寧の訓練については2(3)海軍の項参照。

【コメント】

防衛省は空母「遼寧」が与那国島と西表島の間を初めて通過したと公表した。与那国島と西表島の間は約70キロしかなく、両島間を通過するには接続水域に入ることになる。中国の空母が接続水域を航行したのは初であり、日本政府は外交ルートを通じて中国側に「深刻な懸念」を伝えた。

国連海洋法条約では沿岸国の平和や秩序、安全を害しない限り、すべての国の船舶が継続的かつ迅速に領海や接続水域を航行できる権利が保障されている。よって今回の活動は国際法違反ではないものの、多数の艦載機を有する空母が接続水域に入域することは領空侵犯の危険性を高めるため、習近平総書記兼中央軍委主席が7月30日に指示した「国境・海空域防衛力整備」強化の一環として、日本への牽制を行った可能性もある。

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国軍機の動向

9月は防衛省による日本周辺における中国軍機の活動の公表はなかった。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 2025 年度防衛予算最高額の要求²⁰

防衛省は 2025 年度 8.5 兆円の予算を要求。認められれば 13 年連続の防衛費増額。日本は近年外部からの脅威を口実に専守防衛から脱却し大幅に防衛費を増額している。

○ 海上自衛隊の大規模改編の目的²¹

海上自衛隊が創設以来の大改編を予定しているが、この真意は新たな作戦体系を構築し、遠海作戦能力を向上させることである。この改編は日米指揮一体化へ向けての始まりである。米国は日本を利用し、大国競争戦略における不十分な戦力を補完し、日本は米国を利用して再武装に向かっている。

○ 日米豪印が共同パトロール実施予定²²

日米豪印の首脳が QUAD において、4 ヶ国の海上警備部門の共同パトロールに合意した。これはパトロールの名の下に、地域問題への介入が増加することを意味する。共同パトロールは軍事演習より烈度は低いものの、より柔軟に高頻度で実施でき、地域の緊張を高める。

○ 日本への米陸軍中距離ミサイル配備の可能性について（国防部定例記者会見）²³

米のアジア太平洋地域への中距離ミサイル配備に断固反対する。日本に対し、慎重に行動し、狼を招き入れて米国に迎合することのないよう厳正に忠告する。さもなければ自ら苦境に陥るだけである。中国は情勢と自国の必要に基づき、断固とした対応を採る。

○ 海上自衛隊護衛艦の台湾海峡通過について（国防部定例記者会見）²³

9 月 25 日、日本護衛艦「さざなみ」、豪護衛艦「シドニー」、NZ 補給艦「アオテアロア」が、台湾海峡を通過し、解放軍はこの全行程を監視・警戒した。中国は「航行の自由」の名の下に台湾独立勢力に間違った信号を送り、中国の主権・安全に危害を加える挑発に断固反対する。

○ 日本が米と共に台湾情勢に介入する準備をしている可能性（国防部定例記者会見）²³

近年、日本は新たな作戦体系を構築し、新領域能力を整備し、長距離攻撃能力を強化している。我々は日本に歴史の教訓を汲み取り、軍事方面における言動を慎み、地域の平和と安定に寄与するよう促す。

【コメント】

9 月も自衛隊が日米同盟や QUAD の枠組みで協力強化することに反発、特に第 1 列島線以内の領域拒否が困難となる恐れのある日本への米陸軍中距離ミサイル配備には強く反対した。

海自艦艇の台湾海峡通過については、担当である東部戦区報道官ではなく、国防省報道官がコメントを表明した。日本として初の通過と報道されたため、戦区ではなく中央軍事委員会レベルで対応ぶりを検討した可能性も否定できない。

5 国境地域等での活動

(1) 南シナ海

ア 対フィリピン（以下、比）

○ 中国船舶等の活動

比海軍報道官は「西フィリピン海に展開している中国船舶は、9/10~16：157隻、9/17~23：251隻（海上民兵船×204、海警船×28、海軍艦艇×16、科学調査船×3）、9/24~30：178隻で251隻は今年最多。スカボロー・セカンドトーマス・サビナ礁に集中。」と表明²⁴。

9月27日には、ハーフムーン礁周辺海域で比漁船に補給活動等を行っていた比漁業水産資源局の公務船2隻を中国海軍22型ミサイル艇2隻が追跡、更に上空でパトロール中の比漁業水産資源局の航空機に対して3度のレーザー照射を実施した²⁵。

比漁業水産資源局航空機から撮影された中国海軍ミサイル艇



火器レーザー照射を中止するよう、比側副機長が呼びかける場面の報道



(資料源：CMA News Online 20240930)

一方中国側は、9月28日に南部戦区が「9月28日、南部戦区はスカボロー礁周辺海空域において定例の訓練を実施し、任務部隊の偵察監視・パトロール、統合打撃能力を実戦検証した。南シナ海を混乱させホットスポットを作り出そうとする全ての行動を把握している。戦区部隊は高度に警戒し、地域の平和と安定を破壊する結託した行為を断固として打ち砕く」と表明²⁶。

また、10月1日にも南部戦区が「9月30日~10月1日、南部戦区艦艇編隊は南シナ海で戦備パトロールを実施した」と表明した²⁷。

○ サビナ礁

9月15日、中国海警局報道官は「4月17日以来約5か月間、比巡視船9701がサビナ礁に不法に所在。この間、比は同船に繰り返し補給を試みたが、中国側が法に基づき対処したため失敗。9月14日14時頃（中国時間）、比巡視船9701はサビナ礁から撤退。」と表明した²⁸。

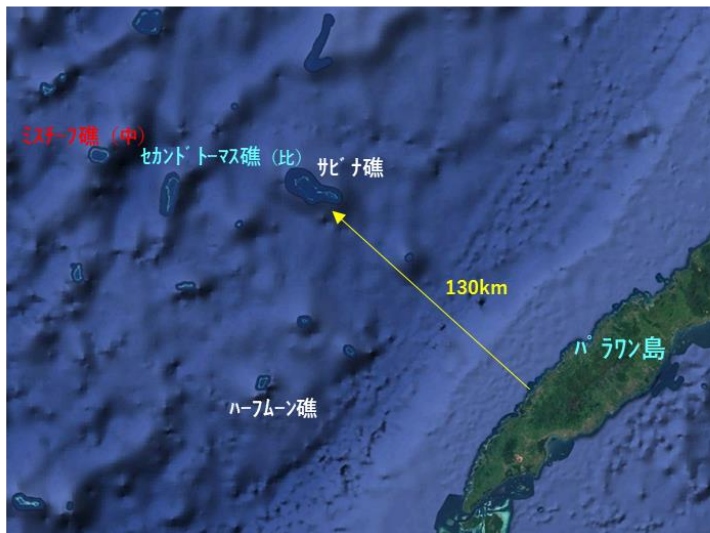
○ セカンドトーマス礁

9月26日、中国海警報道官は「9月26日、中比両国の臨時調整に基づき、比の民間船がセカンドトーマス礁に不法に座礁している艦艇に生活物資を輸送した。中国海警は比船に尋問を実施し、全行程を監視・管理した」と表明した²⁹。

一方、比軍報道官は、9月27日、「9月26日、比軍と比沿岸警備隊は2か月ぶりに BRP Sierra

Madre（注：座礁船）に補給を実施。8隻の中国船が監視する中、民間船が輸送を実施したが、中国による妨害はなかった」と表明³⁰。

各礁の位置関係（白字は実効支配国未確定）



【コメント】

中比は本年に入り、サビナ礁に停泊している比沿岸警備隊巡視船及びセカンドトーマス礁の座礁船への比の補給活動を巡り対立を激化させている。

サビナ礁については、8月31日に中国海警船と停泊していた比巡視船が衝突し比巡視船が損傷、更に中国海警船が損傷した比巡視船への補給を妨害していた。9月11日、両国は南シナ海問題二国間協議メカニズム団長会議を開催、中国が比巡視船のサビナ礁からの早期撤退を求めた³¹後の14日、比は4月から停泊させていた巡視船を帰港させた。22日、比国家海事委員会（NMC）はサビナ礁に再び船舶を派遣する旨を表明するも、現時点ではまだ再派遣は確認されていない。

セカンドトーマス礁では、同様に中国海警船に妨害されていた比座礁船への補給を2か月ぶりに比側が実施。これに関し中国側は中比の調整により、中国の管理下においての比の補給を認めたと主張している。

9月に南シナ海（比呼称：西フィリピン海）で比が確認した週間中国船舶数は本年最多を記録しており、中国は圧倒的な船舶の質と量を背景に、比の南シナ海でのプレゼンスを実力をもって排除している。

また、南部戦区が9月28日に訓練を実施し、「南シナ海を混乱させホットスポットを作り出そうとする全ての行動を把握。地域の平和と安定を破壊する結託した行為を断固として打ち砕く」との表明は、同じく28日に南シナ海で実施された日米豪比 NZ5 か国による海上共同訓練への対抗措置の可能性が大である。

(2) 対ベトナム

○ トンキン湾・南シナ海でのパトロール

9月27日、中国最大の1万トン級海事公船「海巡09」が広東・広西・海南地区及びトンキン湾において、広東・広西・海南海事局及び南シナ海保障センターの10隻余りの法執行船と共にパトロールを実施した³²。

海上風力発電地区をパトロールする海巡09 (資料源：新華網 20240927)



○ ベトナム漁船への臨検

10月2日、ベトナム外務省報道官は「9月29日、西沙諸島海域において中国の法執行公船がベトナム漁船上で漁民に暴行を働き、財産を没収した。駐越中国大使館に対し嚴重に抗議し、緊急に調査して結果を通報し二度と類似の事件が再発することないように要求した」と表明³³。

越漁船に乗り込もうとする「三沙執法101」のボート



越漁船へ乗り込み後の臨検の状況



(資料源：SCSPI X 20241005)

【コメント】

中国は国慶節(10/1)前に、中国最大の1万トン級海事公船「海巡09」も投入し海南等の海事当局と共に、越と領有権問題を有する南シナ海でのパトロールを強化した。今回、越漁民に暴行を働いたと抗議された船舶「三沙執法101」号は海南省三沙市に所属する1000t級の総合法執行船である³⁴。

近年、中国は南シナ海においては米と同盟関係を強化する比を主敵として圧力をかけており、越への対応は比較的緩やかなものであった。今回の事案は国慶節前の一時的なパトロール強化とも考えられる一方、習近平総書記が7月30日に指示した「国境・海空防衛力の整備」強化に従っているとすれば、越への対応も強硬化する可能性があり、今後このような事案が継続するか注目される。

6 軍事交流

(1) 米中交流

○ 米中軍司令官オンライン会談

9月10日、呉亜男・南部戦区司令官が米印太平洋軍のパパロ司令官とオンラインで会談、中国国防部によれば「共通の関心事について深く意見を交わした」。³⁵

米印太平洋軍司令部によれば、「今会談は2023年11月のバイデン米大統領と習近平国家主席との会談で合意されたハイレベル軍事交流の一環。会談でパパロ司令官は、両軍の交流継続は誤解・誤算によるリスク軽減に役立ち重要としたうえで、最近の米同盟国に対する中国軍の危険な対応について、国際法などを順守する義務を強調したほか、南シナ海での危険で威圧的であり緊張を高めるような行動を考え直すよう求めた。また、パパロ司令官は懸念事項については呉司令官と同様に他戦区司令官とも対話を続ける必要があると述べた」。³⁶

○ 第18回米中国防部工作会議

9月14～15日、第18回米中国防部工作会議（米側呼称「防衛政策調整協議」）が北京で開催。中国は中央軍事委員会国際軍事協力弁公室の幹部、米国は国防総省のマイケル・チェイス副次官補（中国担当）らが参加した。中国側の発表によると、「米中両軍関係、今後の交流や共通の関心事項について深く意見交換した」。³⁷

○ 南部戦区司令官のハワイ訪問

9月18～20日、呉亜男・南部戦区司令官が印太平洋国防軍司令官会議に参加するためハワイを訪問。中国国防部によれば、「この間、タイ・シンガポール・比・英・仏・米国等の代表と会談・交流を実施。米インド太平洋軍のパパロ司令官との会談時には両国首脳のコセンサスに基づき、共同の関心事項について率直な意見交換を行った」。³⁸

【コメント】

先月8月には習近平国家主席及び張又俠・中央軍事委員会副主席（制服組の軍トップ）が訪中したサリバン米大統領補佐官と会談したが、9月も米国との交流を加速させた。

これは、9月25日に実施した太平洋上へのICBM発射前の地ならしであった可能性がある。中国は、今回の発射に関し、関係国に事前通告を実施したと表明している。これに関し米国防総省副報道官は25日の記者会見で、「ICBMの演習に関して事前通告を受けた。そのことは誤解・誤算を避ける上で正しい方向のものだ。国防総省としては、弾道ミサイルなどの発射について2国間の通告を行う仕組みをさらに整えるよう求めていく」と述べた。

この、中国の事前通告を評価するような発言の背景には、ICBM発射に関し、一定のコセンサスを得るよう、中国による対米関係改善にむけての継続的な働きかけがあったと考えられる。

(2) 中露交流

○ 中露海上共同演習

9月上旬から中国海軍が日本海・オホーツク海において「北部・聯合-2024 演習」を実施。同演習に露軍が9月10～27日の間参加し、併せて太平洋で第5回中露共同海上パトロールも実施した。更に中国が9月10～16日に実施された露海軍の大規模演習「オケアン（大洋）-2024」に参加した。

「北部・聯合-2024 演習」では中露併せて艦艇10隻以上、航空機30機以上が参加し日本海・オホーツク海で共同戦術指揮等を演練した³⁹。

◇ 参加艦艇等⁴⁰

	中	露
航空機	KJ-500 J-16 J-10 Z-20	IL-38 Su-30 Mig-31
艦艇 ・艦載機	ミサイル駆逐艦「西寧 117」 「無錫 104」 ミサイル護衛艦「臨沂 547」 総合補給艦「太湖 889」 艦載ヘリ×3	ウダロイ級駆逐艦 「マーシャル・シャポシュニコフ」 「アドミラル・パンチェレーエフ」 コルベット×4 Ka-27 対潜ヘリ

◇ 訓練内容等⁴¹

9/8 ウラジオストック空港に中露共同指揮所開設

9/9 中国側艦艇予定海域に到着

9/10 露軍参加し演習開始

9/15 「北部・聯合-2024 演習」の第1段階が終了。対抗形式で指揮を交代して、防空・対潜・錨地防御・上陸編隊の機動演習等の共同訓練を実施。日本海においてミサイル・艦砲射撃を実施

9/18 中国艦艇が露沿海地方の海軍基地に寄港し3日間の友好訪問

9/21 第2段階開始式を露海軍基地で開催。編隊は訓練海域に移動し、海空護衛・警戒・防空・火力打撃等の共同訓練

9/27 閉会式。中国の演習指揮官は、「共同戦役指揮部の綿密な調整の下、より複雑化した海空戦場環境下での中露共同と海空統合一体化作戦が深化した」と述べた。

【コメント】

「北部・聯合」演習は昨年に引き続き2回目。昨年の「北部・聯合-2023」は7月20～23日、北部戦区が主催し日本海中部において実施、中露から艦船10隻以上、航空機30機以上が参加し、その後に共同パトロールも実施した。

昨年に比して、参加兵力はほぼ同等であるが、訓練海域がオホーツク海まで拡大し、期間も4日間か

ら 17 日間と大幅に増加した。これは中露両軍が「北部・聯合」と「オケアン」演習に相互に参加したことや友好訪問が含まれていたことも一因ではあるが、中国国防部は同演習に関し「中露両軍の戦略協力を深化させ、安全保障上の脅威に共同で対処する能力を強化する」と述べており、共同訓練の内容がより高度化した可能性がある。

(3) その他の国との交流

○ 中・シンガポール（以下、星）共同演習

9月1日～9月5日、湛江及び周辺海空域において、「中星合作-2024」海上共同演習を実施。両国とも3隻の艦艇が参加、8月29日に集結を完了し、9月3日からは海上フェーズに移行し海上打撃・補給・救難・臨検拿捕等の科目を演練⁴³。

○ 中・ネパール陸軍共同訓練「チョモランマ友誼-2024」

9月22日～9月30日、中国重慶市の訓練場にて、中・ネパール陸軍共同訓練「チョモランマ友誼-2024」を実施。都市部での対テロ行動をテーマに、軽火器特殊射撃・小部隊の対テロ戦術・無人機操作・対テロ総合演習及び災害対応等の訓練を実施。チョモランマシリーズとしては5年ぶり4回目の共同訓練。

○ ブラジル多国間演習「フォルモサ行動-2024」

ブラジル多国間演習「フォルモサ行動-2024」に海軍陸戦隊が参加。共同上陸・対上陸作戦を訓練した。中国の参加は初⁴⁵。

ブラジル海軍によれば、演習は9月11～13日に実施され、中国は昨年の演習にはオブザーバーを派遣したが、今年は部隊を派遣した。米軍も参加するが、米国防総省報道官は演習で米中両軍が一緒に訓練することはないと述べた⁴⁶。

【コメント】

ASEAN 加盟国である星との信頼醸成を図ると共に、印の影響力の強いネパールとの共同訓練で無人機等の装備や災害対応のノウハウについて教授し、中国の影響力の強化及び装備品輸出の下地作りを行った。

また、BRICS の初期メンバーで米国の影響力の強いラテンアメリカの大国であるブラジルとの軍事交流強化にも取り組んだ。

【参考文献】

- 1 中国国防部 20240925
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/yw_214049/16340691.html
- 2 中華民國國防部 20240904
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83396&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 3 中華民國國防部
20240926<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83495&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 4 中國網 20240927
http://www.81.cn/yw_208727/16341105.html
- 5 中国国防部 20240919
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16339506.html>
- 6 統合幕僚監部 20241002
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20241002_01.pdf
- 7 中華民國國防部 20240918
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83464&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 8 中華民國國防部 20240929
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83508&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 9 中国海警局官方 weibo20240909
<https://weibo.com/u/6586732953?lpage=profileRecom>
- 10 中国海警局 20240918
https://www.ccg.gov.cn/gjhz/202409/t20240918_2468.html
- 11 環球網 20241002
<https://mil.huanqiu.com/article/4JfsRnSRDRq>
- 12 United States Coast Guard News20241001
<https://www.news.uscg.mil/Press-Releases/Article/3922625/us-coast-guard-encounters-joint-chinese-coast-guard-russian-border-guard-patrol/>
- 13 騰訊網 20240914
<https://new.qq.com/rain/a/20240914A0387R00>
- 14 環球網 20240917
<https://mil.huanqiu.com/article/4JTY0gWZ1Ic>
- 15 中国国防部 20240926
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16340999.html
- 16 時事通信 20240926
https://www.jiji.com/jc/article?k=2024092601206&g=int#goog_rewarded

- 17 海洋委員會海巡署 20240926
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=162546&ctNode=650&mp=999>
- 18 中国海警局 20240926
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202409/t20240926_2472.html
- 19 統合幕僚監部 20240918
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20240918_01.pdf
- 20 解放軍報 20240912
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20240912/966b494a1a07e7486c81ce7b6bd04440.pdf>
- 21 解放軍報 20240926
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20240926/6bb209336f81c9814e757373eeba8f5c.pdf>
- 22 解放軍報 20240926
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20240926/6bb209336f81c9814e757373eeba8f5c.pdf>
- 23 中国国防部 20240926
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16340999.html
- 24 Philippine news agency 20240924
<https://www.pna.gov.ph/articles/1234036>
- 25 CMA news onlone 20240930
<https://www.gmanetwork.com/news/topstories/nation/922088/chinese-navy-lasers-aimed-at-bfar-plane-threatened-crew-safety-nmc-official/story/>
- 26 中国国防部 20240928
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16341531.html>
- 27 中国国防部 20241001
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16342275.html>
- 28 中国海警局 20240915
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202409/t20240915_2462.html
- 29 中国海警局 20240927
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202409/t20240927_2474.html
- 30 Philippine news agency 20240927
<https://www.pna.gov.ph/articles/1234280>
- 31 中国外交部 20240911
https://www.fmprc.gov.cn/web/wjbxw_new/202409/t20240911_11489136.shtml
- 32 新華網 20240927
<http://www.news.cn/milpro/20240927/c3733e0060224e578f3572d9649379a8/c.html>
- 33 Vietnam News Agency 20241002
<https://zh.vietnamplus.vn/%E5%9D%A%E5%86%B3%E5%8F%8D%E5%AF%B9%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E6%89%A7%E6%B3%95%E5%8A%9B%E9%87%8F%E5%AF%B9%E8%B6%8A%E5%8D%97%E6%B8%94%E6%B0%91%E9%87%87%E5%8F%96%E7%B2%97%E6%9A%B4%E8%A1%8C%E4%B8%BA-post225796.vnp>

- 34 SCSPI twitter 20241005
https://twitter.com/scs_pi
- 35 中国国防部 20240910
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16337369.html>
- 36 U.S. Indo-Pacific Command20240909
U.S. Indo-Pacific Command
- 37 中国国防部 20240915
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16338731.html>
- 38 中国国防部 20240923
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16340204.html>
- 39 国防部定例記者会見 20240926
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16340999.html
- 40 環球網 20240910
<https://mil.huanqiu.com/article/4JNpQhEyMmp>
- 41 央広網 20240918
https://military.cnr.cn/jq/20240918/t20240918_526908695.shtml
- 中国軍網 20240928
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-09-28&paperNumber=04&articleid=940445
- 42 中国国防部 20240909
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jsxd/ly/16337145.html>
- 43 環球網 20240903
<https://mil.huanqiu.com/article/4JIhnyuiVEj>
- 44 中国網 20241002
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-02&paperNumber=03&articleid=940572
- 45 国防部定例記者会見 20240926
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16340999.html
- 46 ロイター 20240911
<https://jp.reuters.com/world/security/QF2WM5FFXVNXIXL5AZUIS66JE-2024-09-10/>

中国軍事動向月報 2024年9月

2024年10月9日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。